

## 協賛企業賞

### 水の大切さ

朝日中学校 一年 岡下湖都音

私は、水が飲めなくて困ったことがあります。貧しい発展途上国では、水が思うように飲むことができず、大変な思いをしているということを、学校の話で初めて知りました。私は、当たり前のように、それまで蛇口をひねれば、家でも、学校でも、公園でも、図書館でも、安全で清潔な水を飲むことができます。

しかし、発展途上国では水を得るために、往復で四、五時間かけなければなりません。遠い所では、それ以上時間がかかります。汲みにいくのは、子どもが多くてその大半が十五歳以下です。長い時間かけて、汲んだその水は清潔とはいえず、泥水に近いものもあります。汲む子ども達は私より幼い子もいます。水を汲みに行つて帰つてくると時刻は夕方近くで全く勉強をすることができません。そのため、子どもたちは大人になつても読み書きが満足にできません。私は、この状況を見て、自分がいかに恵まれた環境にいるかを知りました。不衛生な水を飲み、料理をし、またその水で皿洗いもします。このような環境で病気になるか、寿命も長くありません。

「水があれば」「水さえあれば」

という言葉聞いたことがあります。その時はただ漠然として意味が分かりませんが、調べていくうちに水が人間にとつていかに重要なものであるかと云うことが分かりました。清潔できれいな水は、人間にとって必要不可欠です。

私の国では、喉が渴けば、水を飲むことができます。百円さえあれば、何処でも水を買うことができます。

しかし、発展途上国では、百円すらも稼ぐことがとても難しく、容易に買うことができません。喉が渴いても家族のために我慢をし満足に飲むことができません。嵐の日や、大雨の日、体調の悪い日はどうするのでしょうか。休めば今日の文の水がなく家族は勿論、自分もとても困ります。どんな時でも水を汲みに行かなければなりません。バケツに入った、たくさんの水は重く。それを時間をかけて幼い子が汲みに行きます。私は、月に一回程度ですが母の手伝いでベランダ掃除をします。私の役割は、大きなバケツに沢山の水を入れ、キッ

チンからベランダまで持つていくことです。バケツをベランダに持つていく回数  
数は約十回位で、たった十六歩程度ですが、毎回毎回、手首が赤くなり、歩  
たびに足取りがフラフラして壁にぶつかり、水がバツシヤバツシヤとこぼれて  
しまいます。ベランダに着いたときにはかなりこぼれていて、回数が増える毎  
にバケツの水はどんどんこぼれていきます。最後のほうはバケツを持つ力がな  
くて、汲む水をつい、減らしてしまいます。汲んだ後は、足腰を痛めてとても  
疲れました。つい不機嫌になり最初の頃は、何もする気が起きませんでした。

しかし、発展途上国の少女達はただただ、ひたすらに黙々と水の入った思い  
バケツを持つて険しい道を歩く必要はありません。ドキュメンタリー番組など  
で発展途上国の水の必要性を見ても現実味がなく想像できませんでした。日本  
という国が豊かなので、あまりにも発展途上国の過酷な環境が現実味がなく

「本当のことなのか？」と最初は吃驚しました。

毎日の生活の中で当たり前のように清潔な水を飲むことができる環境に、つ  
い恵まれていることを忘れがちですが、私たちは自由に 清潔で衛生的である  
水を満身に飲むことができることに感謝しなくてはいけないと思いました。こ  
れまでのことをふまえて、水の大切さを改めて知りました。これからは、清潔  
で衛生的なきれいな水を飲むことに感謝し節水を心がけたいと思います。